

「朝永振一郎・湯川秀樹生誕 100 年記念特別展示」開催報告

財団法人 つくば科学万博記念財団では、筑波大学とともに「朝永振一郎・湯川秀樹生誕 100 年記念特別展示 素粒子の世界を拓く」を 5 月 13 日から 7 月 17 日までつくばエキスポセンターで開催いたしました。

1 階エントランスホールでは、素粒子発見のパネルに加え、宇宙線を観察できるスパークチェンバーを展示いたしました。このスパークチェンバーは身の回りに飛び回っている宇宙線の存在を実感させられる興味深いものでした。2 階多目的ホールでは、ノーベル賞のメダルや朝永・湯川両博士の功績のほか、子供時代の写真や愛用品等を展示いたしました。これらの展示では、両博士の人間味が感じられたのではないのでしょうか。

期間中 35,000 人余の方が来館され、うち約 8,500 人が 2 階多目的ホールの展示をご覧になりました。

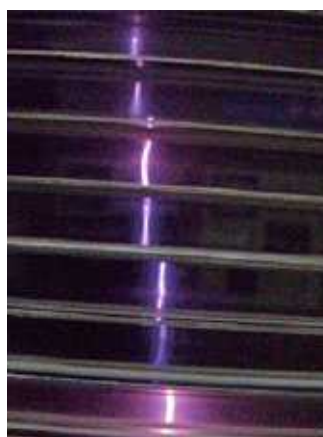
また、筑波大学名誉教授 原 康夫博士を迎え、7 月 8 日に講演会「素粒子って何だろう？ 朝永・湯川両博士の切り拓いた素粒子の世界」をプラネタリウムホールにて開催いたしました。素粒子は波と粒子の二重性を持つという話から、つくばで行なわれている最先端の研究の話題まで、分かりやすく解説されました。つくば市の特性が顕著に表れた感慨深い余韻を残す講演となりました。

本展示は国立科学博物館に続くつくば開催の前半部分にあたり、当館での展示は終了いたしました。引き続き 8 月 31 日まで筑波大学総合交流開館で展示されています。

1 階展示



素粒子発見の過程が展示された。



スパークチェンバー
宇宙線の飛来によって
生じた放電の火花

2 階展示



ノーベル賞のメダルの他、子供時代の成績表や写真など、両博士の交流を物語る手紙も展示された。

講演会



7 月 8 日に開催した講演会の様子。
約 90 人が参加されました。